

2019年度 事業報告書

〔 自 2019年4月1日 〕
〔 至 2020年3月31日 〕

当財団は、「産業、経済、文化の発展に貢献する科学技術、芸術等を中心とする分野で著しい貢献をした者の顕彰、研究または普及啓発に対する助成等を通じてその促進を図ると共に国際相互理解の増進に努め、もって社会の啓発に貢献し、人類の平和と繁栄に寄与する。」ことを目的として、1984年4月12日に設立された。

1985年に第1回京都賞授賞式、第1回研究助成金贈呈式を開催し、事業を開始した。また、2011年4月1日に公益財団法人の認定を受け、新公益法人制度に基づいた運営を開始した。

2019年度事業計画（概要）

I. 顕彰事業

1. 第34回(2018)京都賞関連行事「Kyoto Prize at Oxford」(英国オックスフォード)の支援
第34回(2018)京都賞受賞者による京都賞受賞記念行事の開催
2. 第35回(2019)京都賞の審査および受賞者の決定
対象分野 先端技術部門 : 材料科学
 基礎科学部門 : 地球科学・宇宙科学
 思想・芸術部門 : 映画・演劇
第35回(2019)京都賞授賞式および関連行事の開催
第35回(2019)京都賞関連行事「京都賞シンポジウム」(米国ワシントン)の支援
3. 第36回(2020)京都賞候補者推薦の受付および審査選考の開始
4. 第37回(2021)京都賞授賞対象分野および審査機関委員の決定

II. 研究助成事業

1. 稲盛研究助成
 - ・ 2019年度 稲盛研究助成金贈呈式の開催
 - ・ 2020年度 稲盛研究助成の申請受付と助成対象案件の審査および決定
 - ・ 2021年度 稲盛研究助成選考委員の決定
2. 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップ
 - ・ 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップの運用開始
 - ・ 2020年度 InaRIS フェローシップの申請受付と InaRIS フェローの審査および決定
 - ・ 2020年度 InaRIS 運営委員の決定
 - ・ 2021年度 InaRIS フェロー選考委員の決定

III. 社会啓発事業

1. 第1回「こども科学博」の開催
2. 米国京都賞シンポジウム共催大学への寄附
3. 米国「倫理と叡智のための稲盛国際センター」の活動支援
4. 京都大学「京都大学-稲盛財団合同京都賞シンポジウム」への寄附
5. 京都大学「京都こころ会議(Kokoro Initiative)」への寄附
6. ロームシアター京都「舞台芸術としての伝統芸能シリーズ 文楽公演」への寄附

I. 顕彰事業

1. 第 34 回(2018)京都賞に関する事項

(1) 英国オックスフォード大学主催「Kyoto Prize at Oxford」の開催支援

2019年5月14日、15日の2日間、第34回(2018)京都賞受賞者を迎えて開催された英国オックスフォード大学が主催する「Kyoto Prize at Oxford」を支援し、英国から、欧州および世界に向けて京都賞を発信した。

(2) ジョーン・ジョナス京都賞受賞記念行事の開催

第34回(2018)京都賞受賞者ジョーン・ジョナス氏による京都賞受賞記念行事として、2019年12月12日、ロームシアター京都にてパフォーマンス公演「Reanimation」を開催した。また、2019年12月14日から2020年2月2日にかけて、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAにて展覧会を開催した。

2. 第 35 回(2019)京都賞に関する事項

(1) 京都賞審査機関による審査

国内、海外の有識者より推薦された候補者について、2018年度に開催された各部門専門委員会および審査委員会に引き続き、京都賞委員会を開催し、受賞候補者の審査を行った。

(2) 受賞者の決定と発表

2019年6月14日開催の定時理事会において、第35回(2019)京都賞受賞者を下記3氏に決定し、同日の記者会見にて発表した。

① 先端技術部門受賞者

チン・W・タン 博士 (Dr. Ching W. Tang)

職 業：化学者

香港科技大学 IAS 東亜銀行教授

ロチェスター大学 名誉教授

業 績：

「有機発光ダイオード(有機 EL 素子)の高効率化と実用化およびその応用への先駆的貢献」

二層からなる有機 EL 素子構造を考案し、発光効率が高く、低電圧で動く素子を初めて実現するとともに、構成材料や素子構造の改良で、さらに性能を向上できることを示した。この先駆的貢献により、有機 EL 素子の実用化の道が開かれ、これを用いた表示装置や照明機器の実現と普及がもたらされた。

② 基礎科学部門受賞者

ジェームズ・ガン 博士 (Dr. James Gunn)

職 業：宇宙物理学者

プリンストン大学 ユージン・ヒギンズ宇宙物理学名誉教授

業 績：

「大規模広域観測に基づく宇宙史解明への多大な貢献」

広大な領域の3次元デジタル宇宙地図を作るスローン・デジタル・スカイ・サーベイ計画の構想、機器開発、データ解析など、ほぼ全てにおける指導的役割を通じて、宇宙の進化史解明に貢献するとともに、先駆的な宇宙物理学理論を数多く発表し、人類の宇宙に対する理解に多大な影響を与えてきた。

③ 思想・芸術部門受賞者

アリアーヌ・ムヌーシュキン 氏 (Mrs. Ariane Mnouchkine)

職 業：演出家

太陽劇団 創立者・主宰

業 績：

「半世紀以上にわたって演劇創造の方法と表現を革新し続け、独創的な作品を世界に送り出した演出家」

創立した太陽劇団とともに、歴史と政治を主題にする、国際的評価の高い傑作を生み出し続けている。ヒエラルキーを排した独特の劇団組織と方法論としての集団創作によって舞台芸術の創造を原理から捉え直し、古今東西の伝統芸能を参照することで舞台表現を革新している。

(3) 京都賞審査機関委員の公表

受賞者の発表に併せて、第35回(2019)京都賞審査機関委員を下記の通り公表した。
(肩書は公表時現在)

[京都賞委員会]

榊 裕之 (委員長)	豊田工業大学 学長
巖佐 庸	関西学院大学 理工学部 教授
大笹 吉雄	演劇評論家
梶山 千里	福岡女子大学 理事長・学長
長木 誠司	東京大学 大学院総合文化研究科 教授
中西 重忠	京都大学 名誉教授
本庶 佑	京都大学 高等研究院 副院長・特別教授
松井 孝典	千葉工業大学 常務理事
村上 正紀	立命館大学 学長特別補佐
森 重文	京都大学 高等研究院 院長・特別教授
鷺田 清一	大阪大学 名誉教授

[審査委員会]

① 先端技術部門

村上 正紀 (委員長) 立命館大学 学長特別補佐
秋吉 一成 京都大学 大学院工学研究科 教授
荒川 泰彦 東京大学 ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 特任教授
栗原 和枝 東北大学 未来科学技術共同研究センター 教授
高柳 邦夫 東京工業大学 名誉教授
玉尾 皓平 (公財)豊田理化学研究所 所長
橋本 和仁 物質・材料研究機構 理事長
前川 禎通 理化学研究所 創発物性科学研究センター 特別顧問

② 基礎科学部門

松井 孝典 (委員長) 千葉工業大学 常務理事
家 正則 自然科学研究機構 国立天文台 特任教授
河合 誠之 東京工業大学 理学院 教授
川勝 均 東京大学 地震研究所 教授
柴田 一成 京都大学 大学院理学研究科 教授
須藤 靖 東京大学 大学院理学系研究科 教授
中島 映至 東京大学 名誉教授
永原 裕子 (独)日本学術振興会 学術システム研究センター 副所長

③ 思想・芸術部門

大笹 吉雄 (委員長) 演劇評論家
河合 祥一郎 東京大学 大学院総合文化研究科 教授
高田 和文 静岡文化芸術大学 理事
中条 省平 学習院大学 文学部 教授
長野 由紀 舞踊評論家
貫 成人 専修大学 教授
野崎 敏 放送大学 教養学部 教授
村山 匡一郎 映画評論家

[専門委員会]

① 先端技術部門

高柳 邦夫 (委員長) 東京工業大学 名誉教授
片岡 一則 (公財)川崎市産業振興財団
副理事長・ナノ医療イノベーションセンター長
君塚 信夫 九州大学 大学院工学研究院 主幹教授
小関 敏彦 京都先端科学大学 教授
永長 直人 理化学研究所 創発物性科学研究センター 副センター長
中村 栄一 東京大学 総括プロジェクト機構 特任教授
野田 進 京都大学 大学院工学研究科 教授

波多野 睦子 東京工業大学 工学院 教授

② 基礎科学部門

永原 裕子 (委員長) (独)日本学術振興会 学術システム研究センター 副所長
井田 茂 東京工業大学 地球生命研究所 教授
梅村 雅之 筑波大学 計算科学研究センター 教授
岡村 定矩 東京大学 名誉教授
小山 勝二 京都大学 名誉教授
櫻井 隆 自然科学研究機構 国立天文台 名誉教授
鳥海 光弘 海洋研究開発機構 海域地震火山部門 招聘上席研究員
山形 俊男 海洋研究開発機構 アプリケーションラボ 特任上席研究員

③ 思想・芸術部門

中条 省平 (委員長) 学習院大学 文学部 教授
尼ヶ崎 彬 舞踊評論家
石坂 健治 日本映画大学 映画学部 学部長
内野 儀 学習院女子大学 国際文化交流学部 教授
瀬戸 宏 摂南大学 名誉教授
ドウヴォス・パトリック 東京大学 大学院総合文化研究科 教授
永田 靖 大阪大学 大学院文学研究科 教授
萩尾 瞳 映画・演劇評論家

3. 第35回(2019)京都賞授賞式および関連行事の開催

(1) 受賞者歓迎レセプション

日 時：2019年11月9日(土) 18:30
場 所：京都ホテルオークラ
主 催：京都府、京都市、稲盛財団
貴 賓：高円宮妃久子殿下(稲盛財団名誉総裁)
出席者数：180名
内 容：受賞者を歓迎し、夕食会を開催した。

(2) 第35回(2019)京都賞授賞式

日 時：2019年11月10日(日) 15:00
場 所：国立京都国際会館 大会議場
貴 賓：高円宮妃久子殿下(稲盛財団名誉総裁)
受 賞 者：チン・W・タン 博士(先端技術部門)
 ジェームズ・ガン 博士(基礎科学部門)
 アリアーナ・ムヌーシュキン 氏(思想・芸術部門)
出席者数：1,150名

祝 辞：安倍 晋三 内閣総理大臣
内 容：高円宮妃久子殿下ご臨席のもと、国内、海外から多くの招待者を迎え授賞式を開催した。式典では、稲盛財団会長 中西 重忠から受賞者へ、京都賞メダルとディプロマ、賞金1億円が贈られ、受賞者は受賞にあたってのスピーチを行った。また、内閣総理大臣から祝辞が寄せられ、受賞者の栄誉を讃えた。

(3) 晩餐会

日 時：2019年11月10日（日）18:15
場 所：グランドプリンスホテル京都
貴 賓：高円宮妃久子殿下（稲盛財団名誉総裁）
出席者数：720名
内 容：授賞式に続いて、高円宮妃久子殿下ご臨席のもと晩餐会を開催し、多くの出席者が受賞者を祝福した。

(4) 記念講演会

日 時：2019年11月11日（月）13:00
場 所：国立京都国際会館 大会議場
出席者数：1,000名
演 題：「有機 EL ディ스플레이技術の進化」 チン・W・タン 博士
「宇宙とそこに在るもの - 広域観測を通して理解する」
ジェームズ・ガン 博士
「この賞は誰に贈られたのか？」 アリアーヌ・ムヌーシュキン 氏
内 容：受賞者が上記のテーマで講演を行い、自らの研究や創作を通じて培われた人生観や世界観を披露した。
後 援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、大学コンソーシアム京都、京都新聞社、朝日新聞社、産経新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、共同通信社、時事通信社、NHK、KBS 京都、エフエム京都

(5) 和輪庵夕食会

日 時：2019年11月11日（月）18:30
場 所：和輪庵
内 容：受賞者と受賞者家族を囲んで、懇親夕食会を開催した。

(6) ワークショップ

日 時：2019年11月13日（水）
内 容：部門ごとに、受賞者による講演、研究者や専門家による講演等を行った。

① 先端技術部門「有機 EL の科学と技術：現在、そして広がる未来」

場 所：九州大学 稲盛財団記念館
出席者数：140名

共 催：九州大学
後 援：京都府、京都市、福岡県、福岡市、NHK
協 力：九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センター
協 賛：応用物理学会、有機 EL 討論会、Society for Information Display 日本支部

② 基礎科学部門「広域スカイサーベイによる宇宙探査：天文学の過去から未来へ」

場 所：東京大学医学部教育研究棟 鉄門記念講堂

出席者数：130 名

共 催：東京大学理学部物理学教室

後 援：京都府、京都市、NHK

協 賛：国立天文台、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構、
東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター、
東京大学大学院理学系研究科附属ビッグバン宇宙国際研究センター、
東京大学理学部天文学教室、日本天文学会

③ 思想・芸術部門「太陽劇団の軌跡」

場 所：早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール

出席者数：300名

共 催：早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、早稲田大学文学部演劇映像コース、
早稲田大学大学院文学研究科演劇映像学コース、早稲田大学演劇映像学会

後 援：京都府、京都市、NHK

協 力：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

協 賛：国際演劇評論家協会日本センター

(7) 鹿児島での関連行事

「京都賞受賞者鹿児島講演会」の開催協力

開 催 日：2019 年 11 月 16 日（土）

場 所：宝山ホール（鹿児島県文化センター）

出席者数：1,200 名

主 催：京都賞受賞者講演会実行委員会

内 容：鹿児島県、鹿児島市、鹿児島大学および鹿児島商工会議所が主体となって組織された「京都賞受賞者講演会実行委員会」による講演会の開催に協力した。併せて、社会啓発事業における青少年育成の観点から、世界の知性に触れる機会を提供することを目的に、鹿児島県の離島の高校 3 校より計 162 名の高校生を講演会へ招待した。

(8) 広報

① テレビによる報道

授賞式は、NHK（全国）を中心に、関西では ABC（朝日放送）、MBS（毎日放送）、KBS（京都放送）、BS テレビ東京において、また、鹿児島講演会は、KKB（鹿児島放送）、KTS（鹿児島テレビ）において、それぞれその模様が報道された。

② 新聞雑誌等による報道

全国紙をはじめ通信社や雑誌による取材があり、授賞式およびその他関連記事が多数掲載された。国内では、京都新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日経新聞、産経新聞より受賞者特集が生まれ、海外では、フランス AFP @la-croix.com、ドイツ informationdisplay.org などに受賞者への取材記事が掲載された。雑誌では、Newton、日経サイエンスより記念講演会、ワークショップの事前告知が紹介されると共に、国内では『人間会議』、『悲劇喜劇』、『天文月報』に、海外では『Veritas et Visus』、『DSCC Weekly Review』、『DESIGN & ELEKTRONIK』に、それぞれ特集記事が掲載された。

(9) 京都賞を周知する広告等の展開

京都賞への集客や認知を目的として、下記の通り広告や展示、ウェブ等で展開した。

① 屋外広告

- ・2019年11月1日から11月18日までの期間、京都の幹線道路、烏丸通のJR京都駅から丸太町通に至る区間と、御池通、岡崎周辺、神宮道、並びに京都賞の主会場となった国立京都国際会館専用道路の街灯に、京都賞の開催を告げるバナーを掲出した。
- ・京都市内のバス停77ヶ所に大型広告や、商業施設壁面を利用した大型サインシートを掲出した。
- ・京都市営地下鉄「国際会館駅」連絡通路8面や、御池通りの地下街「ゼスト御池」にデジタルサイネージを掲出した。

② 新聞ラジオ広告および印刷物

- ・「記念講演会募集」に関して、京都、朝日、読売の新聞各紙に広告（半5段モノクロ）を掲載した。またエフエム京都のラジオ告知もおこなった。
- ・記念講演会および各ワークショップのポスター、チラシを作成した。

③ ウェブサイト刷新、SNSでの投稿

- ・集客開始のタイミングにあわせて、京都賞ウェブサイトの全面刷新をおこなった。
- ・ウェブやSNS（Facebook・Twitter）でタイムリーに情報を発信した。

④ 映像制作

- ・京都賞授賞式、記念講演会、受賞者インタビュー映像を、それぞれ日本語版、英語版（一部仏語）で作成し、公式ウェブサイト等にて公開した。

⑤ 国際会館内の展示装飾

- ・国際会館に来場される方々に京都賞ロゴの3色を印象づけると共に、受賞者の「人」を感じることができるよう、館内ロビーの受賞者紹介パネルを刷新し、式典会場までの動線上に巨大なタペストリーを新設した。

(10) 米国での関連行事

米国サンディエゴにおける「京都賞シンポジウム」開催支援および寄附

2019年に再調印した「京都賞シンポジウム覚書」に基づき、主催の京都賞シンポジウム組織および共催大学（カリフォルニア大学サンディエゴ校、ポイント・ロマ・ナザレン大学）に対して第1回目35万ドルの寄附を実施した。（2019年から2022年までの4年間で総額140万ドルを寄附予定）

なお、2020年3月17日（火）～19日（木）の3日間で予定されていた、第35回（2019）京都賞受賞者を迎えて米国サンディエゴにて開催される「第19回（2020）京都賞シンポジウム」は、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により、開催延期となった。

4. 第36回（2020）京都賞に関する事項

（1）京都賞審査機関委員の委嘱

2019年3月15日開催の定時理事会において選任された第36回（2020）京都賞審査機関委員に対し、2019年11月11日開催の第36回（2020）京都賞審査機関合同会議において正式に委嘱を行った。

（2）推薦依頼書の発送

2019年7月、推薦依頼方針に基づき、ウェブ申請システムによる推薦依頼を、国内、海外の有識者に対してメールにて送信した。また、当該システム対応外となる書面での推薦依頼書を、郵送にて発送した。

（3）推薦の受付

2019年9月18日をもって推薦書の受付を締め切った。

（4）京都賞審査機関による審査

各部門専門委員会を計12回、審査委員会を計6回開催した。

5. 第37回（2021）京都賞に関する事項

（1）授賞対象分野の決定

2020年3月17日、新型コロナウイルス感染拡大防止のため決議の省略の方法により実施した定時理事会において、第37回（2021）京都賞授賞対象分野を次の通り決定した。

先端技術部門：エレクトロニクス

Electronics

基礎科学部門：生物科学（進化・行動・生態・環境）

Biological Sciences (Evolution, Behavior, Ecology, Environment)

思想・芸術部門：音楽

Music

(2) 京都賞審査機関委員の決定

2020年3月17日、新型コロナウイルス感染拡大防止のため決議の省略の方法により実施した定時理事会において、第37回(2021)京都賞審査機関委員を選任した。

II. 研究助成事業

1. 稲盛研究助成

(1) 2019年度稲盛研究助成に関する事項

① 2019年度稲盛研究助成金贈呈式の開催

開催日：2019年4月20日(土) 14:00

場所：グランドプリンスホテル京都

出席者数：130名

内容：2019年3月15日の定時理事会において承認された50件に対し、総額5,000万円の贈呈を行った。また贈呈式に引き続いて、2019年度盛和スカラーズソサエティ総会が開催され、学校法人東洋大学 総長、元通商産業省 事務次官 福川 伸次氏(公益財団法人 稲盛財団 副理事長)が「時代は我々に何を求めているか 一日本力を再生し、世界に新しいレジームを拓こう」というテーマで、講演を行った。

※ 附属明細1「2019年度 稲盛研究助成対象者並びに研究題目」を参照

(2) 2020年度稲盛研究助成に関する事項

① 応募受付の開始

2019年5月21日、2020年度稲盛研究助成の申請書の受付を開始した。

② 応募の締切

2019年7月20日をもって申請書の受付を締め切り、103大学8機関より、538件の応募を得た。この応募分について、各委員による予備選考を行った。

③ 稲盛研究助成選考委員会による選考

2019年12月6日と12月7日に稲盛研究助成選考委員会を開催し、50件 5,000万円の助成対象者の選考を行った。

④ 稲盛研究助成対象者の決定と発表

2020年3月17日、新型コロナウイルス感染拡大防止のため決議の省略の方法により

実施した定時理事会において、2020年度稲盛研究助成対象者および助成金額を決定し、プレス発表を行った。

※ 附属明細2「2020年度 稲盛研究助成対象者並びに研究題目」を参照

⑤ 稲盛研究助成選考委員の公表

助成対象者の発表に併せて、2020年度稲盛研究助成選考委員を下記の通り公表した。
(肩書は公表時現在)

村上 正紀 (委員長) 立命館大学 学長特別補佐

[自然科学系]

巖佐 庸 関西学院大学 理工学部 教授
岡田 清孝 龍谷大学 RECフェロー
梶山 千里 福岡女子大学 理事長・学長
片岡 一則 (公財)川崎市産業振興財団
副理事長・ナノ医療イノベーションセンター長
紳 裕之 学校法人トヨタ学園 常務理事
佐々木 節 東京大学 国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構 副機構長
中西 重忠 京都大学 名誉教授
西田 栄介 理化学研究所 生命機能科学研究センター センター長
野田 進 京都大学 大学院工学研究科 教授
本庶 佑 京都大学 高等研究院 副院長・特別教授
森 重文 京都大学 高等研究院 院長・特別教授
安浦 寛人 九州大学 理事・副学長

[人文・社会科学系]

佐和 隆光 (公財)国際高等研究所 副所長
田中 成明 京都大学 名誉教授
山室 信一 京都大学 名誉教授
横山 俊夫 静岡文化芸術大学 学長
鷺田 清一 大阪大学 名誉教授

(3) 2021年度稲盛研究助成に関する事項

① 稲盛研究助成選考委員の決定

2020年3月17日、新型コロナウイルス感染拡大防止のため決議の省略の方法により実施した定時理事会において、2021年度稲盛研究助成選考委員を選任した。

2. 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップ

(1) 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップの運用開始

- ① 2019年4月1日、知的好奇心に導かれた真理の探求や基礎科学の社会的意義が尊重される文化の醸成を目指し、基礎科学の研究者を長期的に支援するプログラムである「稲盛科学研究機構(Inamori Research Institute for Science : 略称 InaRIS)フェローシップ」の運用を開始した。

(2) 2019年度 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップに関する事項

- ① 2019年度 InaRIS 運営委員会の開催
2019年7月8日と2019年12月15日に InaRIS 運営委員会を開催した。なお、InaRIS 運営委員会の長の呼称は、稲盛科学研究機構(InaRIS)機構長という。

[2019年度 InaRIS 運営委員]

(肩書は2019年12月15日現在)

中西 重忠 (機構長)	京都大学 名誉教授
岡田 清孝	龍谷大学 REC フェロー
小林 誠	高エネルギー加速器研究機構 特別荣誉教授
榊 裕之	学校法人トヨタ学園 常務理事
森 重文	京都大学 高等研究院 院長・特別教授
山中 伸弥	京都大学 iPS 細胞研究所 所長・教授

(3) 2020年度 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップに関する事項

- ① 応募受付の開始
2019年5月21日、対象領域を「量子」とする2020年度 InaRIS フェローシップの申請書の受付を開始した。
- ② 応募の締切
2019年7月31日をもって申請書の受付を締め切り、23大学8機関より、42件の応募を得た。
- ③ InaRIS フェロー選考委員会による選考
2019年12月14日と2020年2月2日に InaRIS 選考委員会を開催し、InaRIS フェロー候補者の選考を行った。

④ InaRISフェローの決定

2020年3月17日、新型コロナウイルス感染拡大防止のため決議の省略の方法により実施した定時理事会において、2020年度 InaRIS フェローを決定した。

⑤ 運営委員の決定

2020年3月17日、新型コロナウイルス感染拡大防止のため決議の省略の方法により実施した定時理事会において、2020年度 InaRIS 運営委員を選任した。

(4) 2021年度 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップに関する事項

① 対象領域の決定

2019年7月8日開催の運営委員会において、2021年度 InaRIS 対象領域を次の通り決定した。

生命：生物の「しなやかさ」と「したたかさ」

② 対象領域の公表

2020年1月17日、2021年度 InaRIS 対象領域を稲盛財団ウェブサイト上で公表した。

③ InaRIS フェロー選考委員の決定

2020年3月17日、新型コロナウイルス感染拡大防止のため決議の省略の方法により実施した定時理事会において、2021年度 InaRIS フェロー選考委員を選任した。

④ 公募説明会の実施

2020年3月4日、5日の2日間、応募要領について Web 会議システムによる説明会を実施した。

Ⅲ. 社会啓発事業

1. 小学生向け教育イベント、第1回「こども科学博」の開催

こどもたちが科学を楽しむことを通じて、世界に満ちている不思議と、その不思議を解決できる自らの可能性に気づく機会を創出することにより、科学とこどもたちの接点を広げ、将来の日本の学力や科学力の水準を高めることを目指すエンターテインメント型教育イベント「こども科学博」を立ち上げた。2019年8月3日(土)および4日(日)、「宇宙のふしぎ」をテーマに、京都市勧業館「みやこめっせ」において第1回「こども科学博」を開催し、2日間で約12,800名が来場した。

2. 米国「倫理と叡智のための稲盛国際センター」の活動支援

2019年9月19日(木)、米国オハイオ州ケースウェスタンリザーブ大学で開催された

2019 年稲盛倫理賞授賞式の副賞として京人形を贈り、関連行事開催の協力ならびに同センターの活動を支援した。

3. 京都大学「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」への寄附

京都賞に対する社会の期待と関心を高めるとともに、学術・芸術の振興に寄与し、併せて京都大学と当財団の協力関係を強化することを目的として、2019 年 6 月 29 日（土）、日経ホール（東京）にて、京都大学との共催による「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」を実施した。また、再調印した寄附覚書に基づき、第 3 回 2,000 万円の寄附を実施した。（4 年間で総額 8,000 万円を寄附予定）

4. 京都大学「京都こころ会議（Kokoro Initiative）」への寄附

京都大学が、同大学こころの未来研究センターを中心に開催する「京都こころ会議（Kokoro Initiative）」への活動支援として、第 5 回 1,500 万円の寄附を実施した。（6 年間で総額 9,000 万円を寄附予定）

5. ロームシアター京都「シリーズ舞台芸術としての伝統芸能 vol.3 人形浄瑠璃 文楽」への寄附

ロームシアター京都が、伝統芸能の継承と創造を目指すため開催する「舞台芸術としての伝統芸能」シリーズの主旨に賛同し、第三弾となる文楽公演の特別協賛として、300 万円の寄附を実施した。なお、2020 年 2 月 29 日に開催予定であった同公演は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催延期となった。

6. KYOTO STEAM－世界文化交流祭－への寄附

「KYOTO CULTIVATES PROJECT」の理念を体現し、京都賞が先駆的に示してきた科学・技術と芸術という三分野を掛け合わせることにより、文化芸術の新たな可能性と価値をワールドワイドに問う京都市の事業「KYOTO STEAM－世界文化交流祭－」の活動に賛同し、300 万円の寄附を実施した。

7. 「第 2 回 SSI シンポジウム」の後援

大阪大学の人文学・社会科学の研究者が中心となって、社会の諸課題を、自然科学の研究者および社会のステークホルダーとともに解決し、将来の社会を構想するために立ち上げた社会ソリューションイニシアティブ（SSI）の取り組み主旨に賛同し、2020 年 3 月 11 日に開催予定であった「第 2 回 SSI シンポジウム」を後援した。なお、同シンポジウムは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催延期となった。

IV. その他の活動

1. 会議の開催状況

理事会、評議員会を下記の通り開催し、全ての議案が原案通りに承認可決された。

(1) 理事会

臨時理事会（決議の省略の方法による）

日 時 2019年5月23日（木）

議 案 ・2018年度事業報告および決算報告の件

定時理事会

日 時 2019年6月14日（金）

議 案 ・第35回(2019)京都賞受賞者承認の件

報告事項 ・代表理事・業務執行理事の業務執行報告の件

・サンディエゴでの第18回(2019)京都賞シンポジウム開催の件

・英国オックスフォード大学での第3回「Kyoto Prize at Oxford」開催の件

・第6回「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」(KUIP)開催の件

・第1回「こども科学博」開催の件

・主要日程の件

臨時理事会

日 時 2019年6月14日（金）

議 案 ・代表理事（理事長）選任の件

・役付役員選任の件

・京セラ株式会社第65期定時株主総会議決権行使の件

臨時理事会（決議の省略の方法による）

日 時 2020年2月4日（火）

議 案 ・臨時評議員会開催の件

定時理事会（決議の省略の方法による）

日 時 2020年3月17日（火）

議 案 ・京都賞顕彰規程改正の件

・第37回(2021)京都賞授賞対象分野の件

・第37回(2021)京都賞審査に係る委員選任の件

・2020年度 InaRIS フェロー並びに助成金額承認の件

・2020年度 InaRIS 運営に係る委員選任の件

・2021年度 InaRIS フェロー選考に係る委員選任の件

・2020年度 稲盛研究助成対象者並びに助成金額承認の件

・2021年度 稲盛研究助成選考に係る委員選任の件

・第2回「こども科学博」開催の件

・2020年4月以降の役員報酬決定の件

・2020年度 事業計画および収支予算の件

・定時評議員会開催の件(2020年6月)

報告事項 ・代表理事・業務執行理事の業務報告の件

- ・第36回(2020)京都賞推薦状況報告の件
- ・主要日程の件

(2) 評議員会

定時評議員会

日 時 2019年6月14日(金)

- 議 案
- ・2018年度事業報告および決算報告の件
 - ・理事・監事選任の件
 - ・評議員選任の件

- 報告事項
- ・代表理事・業務執行理事の業務執行報告の件
 - ・サンディエゴでの第18回(2019)京都賞シンポジウム開催の件
 - ・英国オックスフォード大学での第3回「Kyoto Prize at Oxford」開催の件
 - ・第6回「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」(KUIP)開催の件
 - ・第1回「こども科学博」開催の件
 - ・主要日程の件

臨時評議員会(決議の省略の方法による)

日 時 2020年3月6日(金)

- 議 案
- ・役員および評議員等の報酬規程改正の件
- 報告事項
- ・代表理事・業務執行理事の業務報告の件
 - ・第36回(2020)京都賞推薦状況報告の件
 - ・主要日程の件

2. 委員会等の開催状況

(1) 第35回(2019)京都賞の各委員会

開催日	名称	議題
2019. 4. 13	京都賞委員会	各部門受賞者審査

(2) 第36回(2020)京都賞および2020年度研究助成事業の各委員会

開催日	名称	議題
2019. 11. 11	京都賞審査機関合同会議	審査基本方針決定
2019. 12. 6	稲盛研究助成選考委員会 人文・社会科学系分科会	助成対象者選考
2019. 12. 7	稲盛研究助成選考委員会 自然科学系分科会	助成対象者選考
2019. 12. 14	第1回2020年度 InaRIS フェロー選考委員会	助成対象者選考
2020. 1. 11	京都賞先端技術部門 第1回専門委員会	候補者審査

2020. 1. 12	京都賞基礎科学部門 第1回専門委員会	候補者審査
2020. 1. 13	京都賞思想・芸術部門 第1回専門委員会	候補者審査
2020. 1. 25	京都賞先端技術部門 第2回専門委員会	候補者審査
2020. 1. 26	京都賞基礎科学部門 第2回専門委員会	候補者審査
2020. 2. 1	京都賞思想・芸術部門 第2回専門委員会	候補者審査
2020. 2. 2	第2回2020年度InaRISフェロー選考委員会	助成対象者選考
2020. 2. 8	京都賞先端技術部門 第3回専門委員会	候補者審査
2020. 2. 9	京都賞基礎科学部門 第3回専門委員会	候補者審査
2020. 2. 15	京都賞思想・芸術部門 第3回専門委員会	候補者審査
2020. 2. 22	京都賞先端技術部門 第4回専門委員会	候補者審査
2020. 2. 23	京都賞基礎科学部門 第4回専門委員会	候補者審査
2020. 2. 29	京都賞思想・芸術部門 第4回専門委員会	候補者審査
2020. 3. 7	京都賞先端技術部門 第1回審査委員会	候補者審査
2020. 3. 8	京都賞基礎科学部門 第1回審査委員会	候補者審査
2020. 3. 14	京都賞思想・芸術部門 第1回審査委員会	候補者審査
2020. 3. 21	京都賞先端技術部門 第2回審査委員会	候補者審査
2020. 3. 22	京都賞基礎科学部門 第2回審査委員会	候補者審査
2020. 3. 28	京都賞思想・芸術部門 第2回審査委員会	候補者審査

3. 広報活動

(1) 記者発表の実施

実施日	内容	実施場所／配布
2019. 4. 15	2019年度 稲盛財団研究助成金贈呈式・盛和スカラース ソサエティ総会取材のお願い：資料配布	関係記者クラブ
2019. 5. 31	第35回京都賞受賞者発表記者会見案内：資料配布	関係記者クラブ
2019. 6. 14	第35回京都賞受賞者決定：記者会見	京都経済センター
2019. 6. 21	こども科学博を初開催：資料配布	関係記者クラブ
2019. 7. 19	こども科学博メディア取材会お知らせ：資料配布	関係記者クラブ
2019. 8. 2	こども科学博メディア取材会	京都市勧業館
2019. 8. 26	ジョン・ジョナス京都賞受賞記念パフォーマンス・ 展覧会：資料配布	関係記者クラブ
2019. 8. 29	第35回京都賞記念講演会およびワークショップ開催 のお知らせ：資料配布	関係記者クラブ
2019. 9. 25	第35回京都賞ウイーク行事概要：資料配布	関係記者クラブ

2019. 10. 8	ジョーン・ジョナス京都賞受賞記念パフォーマンス・ 展覧会：資料配布	関係記者クラブ
2019. 10. 25	第35回京都賞ウイーク取材要項：資料配布	関係記者クラブ
2019. 11. 10	第35回京都賞受賞者共同記者会見	国立京都国際会館
2020. 3. 17	2020年度稲盛財団研究助成50名採択：資料配布	関係記者クラブ

(2) 刊行物の発行

発行月	内容	発行部数
2019. 5	稲盛財団ニュース 98号	5,300部
2019. 7	盛和スカラースソサエティ会報 23号	1,800部
2019. 10	稲盛財団NEWS 99号	5,200部
2020. 2	稲盛財団NEWS 100号	5,200部

(3) 展示物の定期更新

京都大学稲盛財団記念館京都賞ライブラリー、九州大学稲盛財団記念館京都賞ライブラリー、京都市青少年科学センター、ゲストハウス和輪庵、京セラ稲盛ライブラリーで、稲盛財団および京都賞の情報を更新した。

(4) SNS を用いた情報発信

公式 Facebook ページ「京都賞-Kyoto Prize」において、京都賞や稲盛財団の活動に関連する情報を発信した。(英語も含め、計53回)

また、Twitter アカウント「Kyoto Prize」「Inamori News」を運用した。

(5) ウェブサイトのリニューアル

コミュニケーションを図るターゲット層を広げ、財団の活動をより社会に還元するため、稲盛財団および京都賞ウェブサイト进行全面リニューアルした。

(6) 京都市京セラ美術館および鹿児島大学稲盛記念館での京都賞展示コーナーの設置

訪れる人が受賞者の考えや生き方にふれることで、学問や芸術に関心を寄せる機会を創出する展示コンテンツの制作を進めた。

2019年度 稲盛研究助成対象者並びに研究題目

100万円/件

	対象者	研究題目
自然科学系	岐阜大学 大学院医学系研究科 准教授 アベ チカラ 安部 力	前庭－交感神経反射を介する新たな抗炎症機構の解明
	横浜国立大学 大学院工学研究院 テニユアトラック准教授 イイジマ カズトシ 飯島 一智	相互侵入高分子網目ゲルの機能化による間葉系幹細胞の分化制御と膝関節再生
	鳥取大学 大学院工学研究科 助教 イナバ ヒロシ 稲葉 央	ペプチド設計を基軸としたタンパク質内包微小管の構築とその物性解明
	京都大学 大学院農学研究科 助教 イワカミ サトシ 岩上 哲史	除草剤の効かなくなった異質6倍体スーパー雑草の謎に迫る
	名古屋大学 大学院理学研究科 教授 オオサワ シンヅエ 大澤 志津江	細胞ターンオーバーを介した発生時間軸制御の遺伝的基盤
	東京大学 ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 特任准教授 オオタ ヤストモ 太田 泰友	異種材料転写プリント集積技術の開拓と非線形光量子回路への展開
	名古屋大学 大学院工学研究科 准教授 オカモト ヨシヒコ 岡本 佳比古	新タンタル系材料を用いた革新的低温用熱電冷却素子の開発
	筑波大学 数理物質系 助教 カワシマ ヒデヒサ 川島 英久	藻類バイオマスのユニークな分子構造を活かした高性能バイオプラスチックの開発
	宇宙航空研究開発機構 研究開発部門 研究開発員 ゴトウ アキ 後藤 亜希	高分子材料表面物性の原子状酸素ビームによる新規制御法開発
	札幌医科大学 医学部 助教 サイトウ アツシ 齋藤 充史	網羅的菌叢解析から探る、肺マイクロバイオームに与える肺コレクチンの新たな役割
	首都大学東京 大学院システムデザイン研究科 准教授 サカイ カズヤ 酒井 和哉	暗号化されたデータを用いた秘匿性の高い機械学習アルゴリズムの開発
	名古屋大学 大学院理学研究科 助教 シノハラ ヒデフミ 篠原 秀文	植物モルフォゲンのモデルとなる転写因子PLETHORAの濃度勾配形成・維持機構の解明
	慶應義塾大学 理工学部 准教授 シミズ トモコ 清水 智子	新機能材料の発見に向けてのマルチスケール走査型プローブ顕微鏡の開発
大阪大学 大学院基礎工学研究科 助教 シライシ ミヤコ 白石 都	生物界に幅広く存在するEndonuclease Vの普遍的役割の解明	

	対象者	研究題目
自然科学系	東京農工大学 大学院工学研究院 准教授 スズキ タケヒト 鈴木 健仁	ゼロ屈折率・無反射透明なテラヘルツ波帯材料の創製
	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 准教授 スズキ ノブハル 鈴木 喜晴	オリゴデンドロサイトによる神経活動依存的な髄鞘形成の分子メカニズム解明
	山梨大学 大学院総合研究部 助教 スズキ マサン 鈴木 雅視	圧電性希土類添加AlN薄膜を用いた分極反転バイモルフ型振動発電素子の開拓
	理化学研究所 生命機能科学研究センター ユニットリーダー タガミ シュンスケ 田上 俊輔	特殊な結び目状ペプチド合成系の構造解析と創薬利用
	熊本大学 大学院先端機構 准教授 タニモト ショウ 谷本 祥	高次元代数幾何を用いた有理点及び整数点の研究
	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 講師 ツゲ ミツル 津下 充	high mobility group box 1によるインフルエンザ脳症の脳血管内皮障害の病態解析
	電気通信大学 大学院情報理工学研究科 助教 ツダ タクオ 津田 卓雄	地球温暖化監視に資する革新的夜光雲モニタリング手法の開発
	京都大学 大学院工学研究科 准教授 テラシマ タカヤ 寺島 崇矢	両親媒性ポリマーのセルフソーティングに基づく機能性ハイドロゲルの創製
	名古屋市立大学 大学院医学研究科 助教 ニシオ ヒデノリ 西尾 英紀	エピジェネティックな精子形成障害機序の解明による男性不妊症治療法の開発
	北海道大学 大学院理学研究院 助教 ノブカネ ヒロヨシ 延兼 啓純	ルテニウム酸化物ナノ薄膜における新規高温超電導の探索
	京都大学 大学院医学研究科 講師 ヒラシマ ツヨシ 平島 剛志	細胞集団における力学-生化学フィードバックシステムの数理モデリング
	東北大学 大学院農学研究科 助教 フカサワ ユウ 深澤 遊	倒木の腐朽型が樹木実生の倒木上更新に与える影響の解明
	東京大学 定量生命科学研究所 講師 フカヤ タカシ 深谷 雄志	転写制御における高次ゲノム機能の解明
	北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 講師 マスダ タカシ 増田 貴史	プリンテッド- シリコン エレクトロニック デバイスの実用への挑戦

	対象者	研究題目
自然科学系	岡山大学 異分野基礎科学研究所 特任講師 マスダ タカヒコ 増田 孝彦	核共鳴散乱法を用いた原子核からの紫外線発光検出
	京都産業大学 生命科学部 准教授 ミシマ ユウイチロウ 三嶋 雄一郎	遺伝暗号に隠されたmRNA安定性コードの包括的研究
	宇都宮大学 バイオサイエンス教育研究センター 准教授 ミヤカワ ヒトシ 宮川 一志	昆虫以外の節足動物における幼若ホルモンシグナル経路の解明
	金沢大学 新学術創成研究機構 助教 ミヤタ カズキ 宮田 一輝	3次元AFMによる細胞表面揺動構造の液中分子スケール計測
	宮崎大学 農学部 助教 ミヤニシ ヒロシ 宮西 弘	魚類の高塩分味覚受容機構の解明と回遊現象との関連
	岡山大学 大学院環境生命科学研究科 助教 ムネマサ シンタロウ 宗正 晋太郎	高等植物の葉緑体包膜に存在する光応答性プロトン輸送体の機能解析
	愛媛大学 プロテオサイエンスセンター 講師 モリタ マサユキ 森田 将之	ヒト赤血球タンパク質CD55と相互作用する新規マラリアワクチン候補分子の探索
	東京大学 大学院工学系研究科 助教 モリヒロ クニヒコ 森廣 邦彦	鉄(II)イオン応答型RNAi医薬の開発
	大阪大学 大学院医学系研究科 助教 ヤマグチ シンペイ 山口 新平	細胞の全能性を制御する分子基盤の解明
	慶應義塾大学 医学部 助教 ヤマサキ トキヲ 山崎 世和	脳機能を制御するシナプスの興奮・抑制バランスの分子基盤
	大阪府立大学 大学院工学研究科 准教授 ユバ エイジ 弓場 英司	マンノース残基導入pH応答性カードラン修飾リポソームを用いる免疫細胞特異的抗原キャリアの構築
	大阪府立大学 大学院工学研究科 准教授 ヨコシ ノブヒコ 余越 伸彦	光渦誘起スピントロニクス理論
		小計 40件

	対象者	研究題目
人文・社会科学系	京都大学 学際融合教育研究推進センター 特定助教 アカイシ ダイスケ 赤石 大輔	環境保全活動への参加意欲向上に求められる要因の解明：「芦生の森再生」に向けた市民との対話からの検討
	筑波大学 ビジネスサイエンス系 助教 シュ イイ 朱 藝	「おもてなし文化」の日中比較：異文化ビジネスにおける従業員のサービス精神と実践
	滋賀県立大学 人間文化学部 准教授 タケダ シュンスケ 武田 俊輔	限界集落における祭礼・民俗芸能の継承に関する質的研究：住民・他出者・移住者相互の関係性とそれぞれをつなぐ仲介者が果たす役割を中心として
	横浜国立大学 都市イノベーション研究院 准教授 ナカガワ カツシ 中川 克志	台湾における「サウンド・アート（声音藝術、sound art）」の系譜の研究：王福瑞の事例を中心に
	筑波大学 人文社会系 助教 ネモト タツシ 根本 達	インドの不可触民解放運動史料のデジタルアーカイブ化と仏教僧佐々井の「不可触民になる」宗教実践の研究
	大阪大学 大学院人間科学研究科 助教 ノジマ ナツコ 野島 那津子	'benefit scroungers'言説にみる新たな排除のスタイルとその生成プロセス
	名古屋市立大学 大学院経済学研究科 准教授 ヒグチ ユウキ 樋口 裕城	共有資源の賦存量に関する情報認知差を解消するための諸施策
	東京藝術大学 大学院映像研究科 講師 マキ ナホミ 牧 奈歩美	全天周および立体映像における描画手法と空間知覚の研究
	東京大学 大学院人文社会系研究科 助教 ヤナギサワ フミアキ 柳沢 史明	芸術史と宣教学史を介した《文明化の使命》の解明：カトリック宣教団によるAOF（フランス領西アフリカ）の造形文化表象に関する研究
	立教大学 社会学部 助教 ヤブキ ヤスオ 矢吹 康夫	見た目問題当事者運動の担い手の動機と啓発戦略の変化
		小計 10件
		合計 50件

※所属・役職は、贈呈時のものです。

2020年度 稲盛研究助成対象者並びに研究題目

100万円/件

	対象者	研究題目
自然科学系	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 講師 イケダ ケンジ 池田 賢司	シングルセル解析を用いた肥満に伴うベージュ脂肪細胞誘導低下機構の解明
	大分大学 理工学部 准教授 イワシタ タクヤ 岩下 拓哉	水溶液物理学の構築：粘度異常の分子論描象
	大阪府立大学 大学院生命環境科学研究科 講師 オガワ タクミ 小川 拓水	ユーグレナの単離ミトコンドリアを用いたワックスエステル発酵経路の精密解析
	群馬大学 大学院理工学府 助教 カクチ リョウヘイ 覚知 亮平	多成分連結反応による共役系高分子の多様性指向合成と超高感度・高選択的金属センサーのライブラリー探索
	東京大学 大学院理学系研究科 准教授 カツラ ホウショウ 桂 法称	拘束条件のある多体電子系の量子もつれとダイナミクス
	東京大学 大学院総合文化研究科 准教授 カトウ ヒデアキ 加藤 英明	GPCR-Gタンパク質複合体の形成過程における反応中間体の構造機能解析
	京都大学 大学院工学研究科 助教 カネコ ミツアキ 金子 光顕	超高温環境動作SiC集積回路の開発
	理化学研究所 環境資源科学研究センター 研究員 キム ジュンシク Kim June-Sik	小胞体ストレス応答による植物の開花を促進する遺伝子制御機構の解明
	金沢大学 医薬保健研究域 准教授 クライシ タカユキ 倉石 貴透	自己炎症によるがん発生メカニズムの解明
	立命館大学 生命科学部 准教授 コシヤマ トモミ 越山 友美	細胞膜内部表面における金属微粒子合成法の確立と特性評価
	甲南大学 理工学部 准教授 ゴトウ アヤコ 後藤 彩子	女王アリにおける長期間の精子貯蔵メカニズム
	東京理科大学 生命医科学研究所 講師 コン シュンスケ 昆 俊亮	細胞競合を介したオートファジーの抗腫瘍機構の解明
	京都大学 大学院工学研究科 助教 ゴン マサユキ 権 正行	高効率近赤外発光を指向した縮環型共役系高分子錯体の創出
	茨城大学 理学部 助教 スズキ タクミ 鈴木 匠	神経細胞の多様性を生み出す分子機構の解明

	対象者	研究題目
自然科学系	北海道大学 大学院理学研究院 特任助教 タカギ セイコ 高木 聖子	金星雲に働く物理・化学機構と大気ダイナミクスの理解
	立命館大学 立命館グローバル・イノベーション研究機構 助教 タケナカ ユウト 竹中 悠人	植物の発達を支えるバイオポリマー「ペクチン」の生合成機構の解明
	電気通信大学 大学院情報理工学研究科 助教 タジリ タケヨシ 田尻 武義	埋め込み再成長法を用いた窒化物半導体三次元フォトニック結晶の作製と応用に関する研究
	千葉大学 大学院理学研究院 准教授 ツチマツ タカシ 土松 隆志	野生ペチュニア集団における非自己認識型自家不和合性システムの実態解明
	東京工業大学 物質理工学院 助教 ツバキ シュンタロウ 椿 俊太郎	高周波を用いた新バイオマスガス化法の開発
	東京農工大学 大学院工学研究院 特任准教授 テラ マサユキ 寺 正行	核酸構造制御に基づく遺伝子調節法の開発
	筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 助教 トダ ヒロフミ 戸田 浩史	睡眠誘引遺伝子'nemuri'の機能解析 -睡眠と免疫の接点を探る-
	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 助教 トベ ヒロブミ 戸部 裕史	高温で駆動可能なPd-Ti-Zr形状記憶合金の開発
	京都大学 附属図書館 助教 ニシオカ チフミ 西岡 千文	エビデンスに基づく図書館資料推薦システムの実現に向けた学習ログ分析手法の研究開発
	東京大学 大学院理学系研究科 助教 ニシグチ ダイキ 西口 大貴	細胞配向秩序の時空間制御と応答測定
	東京大学 大学院理学系研究科 助教 ニシザワ アツシ 西澤 篤志	重力理論検証のための重力波データ統計解析法の構築
	山口大学 大学院創成科学研究科 講師 ノザキ タカユキ 野崎 隆之	挿入/削除訂正符号の理論と構成
	岐阜大学 応用生物科学部 助教 ハシモト ミスズ 橋本 美涼	メチル化修飾分子の同定による中枢神経ミエリン形成メカニズムの解明

	対象者	研究題目
自然科学系	九州大学 病院 助教 ハタエ リュウスケ 波多江 龍亮	リンパ球及び代謝産物解析による転移性脳腫瘍患者の免疫チェックポイント阻害剤に対する抵抗性の解明
	東北大学 加齢医学研究所 助教 ハヤシ ヨウヘイ 林 陽平	セリン代謝を介したマウスオス胎仔生殖細胞の分化制御機構
	大阪工業大学 工学部 特任准教授 ヒライ トモヤス 平井 智康	表面開始リビングアニオン重合法に基づく立体規則性双性イオンブラシの創製
	立命館大学 理工学部 准教授 フクヤマ トモコ 福山 智子	圧電効果を用いたコンクリート材料強度測定法の確立
	岡山大学 資源植物科学研究所 助教 フルタ トモユキ 古田 智敬	植物個体近傍の微小環境を測定するシステムの開発と実証
	大阪府立大学 大学院工学研究科 助教 マツモト タクヤ 松本 拓也	有機溶媒に耐性を有するPET分解酵素の開発
	熊本大学 大学院先端機構 准教授 ミウラ キョウコ 三浦 恭子	最長寿齧歯類ハダカデバネズミにおける種特異的高発現遺伝子の役割の解明
	島根大学 学術研究院 准教授 モウギ アキヒコ 舞木 昭彦	種内と種間の多様性に関する相互維持機構の理論的研究
	東京工業大学 理学院 准教授 ヤマザキ マサカズ 山崎 優一	電子・振動励起状態にある分子の波動関数撮像法の開発
	徳島大学 ポストLEDフォトリクス研究所 特任准教授 ヨシイ カズミチ 吉井 一倫	光ファンクションジェネレーターの開発と展開
	九州大学 大学院工学研究院 助教 ワカバヤシ リエ 若林 里衣	ペプチド性超分子の物理的因子と細胞作用
	同志社大学 生命医科学部 助教 ワク ツヨシ 和久 剛	腫瘍増悪性転写因子NRF3によるアミノ酸取り込み競合を介した新規がん免疫抑制機構の解明
	埼玉大学 大学院理工学研究科 助教 ワタナベ キワム 渡邊 究	ファノ多様体における等質多様体の特徴付け
		小計 40件

	対象者	研究題目
人文・社会科学系	青山学院大学 総合文化政策学部 助教 シャザディグリ シャウテイ シャザディグリ シャウテイ	外国人労働者の将来展望ー在日外国人労働者に関する調査研究ー
	京都大学 医学部附属病院 特定講師 タケノウチ サヤカ 竹之内 沙弥香	最期まで自分らしく生きるための話し合い：市民へのアドバンス・ケア・プランニング支援ツールの開発と評価
	筑波大学 体育系 助教 デン ショウチ 田 暁潔	社会化における教育の役割についての再考ー牧畜民マサイの子どもと大人の共同牧畜の民族誌からー
	鳥取大学 地域学部 講師 フクヤマ ヒロシ 福山 寛志	音楽性の起源を求めて：親子間および乳児同士にみる音楽的やり取りに関する発達心理学的検討
	宇都宮大学 大学院地域創生科学研究科 助教 フジイ ヒロシゲ 藤井 広重	アフリカにおける国際的な司法介入後の「レガシー」をめぐる実証研究：ICC被害者信託基金の活動を中心に
	静岡文化芸術大学 文化政策学部 教授 フジイ ヤスユキ 藤井 康幸	人口減少下において増加する空き家・空き地への対処方策、その中核機関としてのランドバンクのあり方の研究
	横浜市立大学 大学院都市社会文化研究科 教授 マツモト イクヨ 松本 郁代	日本中世における家職の定着と各家の神仏起源語りに関する学際的研究
	上智大学 経済学部 准教授 ミン ジョンウオン 関 延媛	組織はヒューマンエラーからどう学習できるか：世界原子力発電所のデータを用いた実証分析
	北海道大学 大学院法学研究科 准教授 モリ ユウイチロウ 森 悠一郎	個人としての尊重を中心とした差別の規範理論の法哲学的検討
	早稲田大学 商学部 教授 ヤマウチ アキ 山内 暁	無形資産としての特許権の会計処理方法とその開示に係る検討
		小計 10件
		合計 50件

※所属・役職は、申請時のものです。